

資料 1

平成 29 年 1 月 20 日提出

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価
(案) について

石狩市 環境市民部

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成29年1月20日

協議会名:石狩市地域公共交通会議

評価対象事業名:地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
石狩市	【北方面】 予約制デマンド方式 雄冬・千代志別・床丹・幌・群別 各戸から幹線交通に接続または 浜益温泉、診療所などまで 運行		B 事業が計画に位置づけられたとおりに実施されていない点があった。 特に南方面、東方面、北方面では補助対象外となってしまう運行が多かった。	C 【事業の目標】 年間利用者数(4月～9月) 目標1,584人 実績935人 当初の想定よりも利用者が少なかった。また対象外の利用があったため、実績値としては、さらに低くなる要因となった。	北海道中央バスの札幌浜益線(定期定路線)の廃止に伴い、平成28年4月より新たな公共交通としてスタートした。利用者の満足度やニーズの把握を行い、利用実態に合わせた運行エリアの見直し、時刻表の改定等について検討していく。
石狩市	【南方面】 予約制デマンド方式 浜益・柏木・川下・毘砂別・送毛 各戸から幹線交通に接続または 浜益温泉、診療所などまで 運行				
石狩市	【東方面】 予約制デマンド方式 浜益・柏木・川下・実田・御料地 各戸から幹線交通に接続または 浜益温泉、診療所などまで 運行				
石狩市	【厚田方面】 予約制デマンド方式 浜益区内各戸から中央バス札幌厚線に接続				

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

平成29年1月20日

協議会名:	石狩市地域公共交通会議
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>石狩市は札幌市の北側に位置し、南北に長く日本海に面している。面積は721.86km²、人口は約59,000人である。</p> <p>石狩市浜益区内を運行する公共交通の利用者は、区内の人口減少などにより、減少の一途を辿っている。なかでも中央バス札幌浜益線は、浜益区の区間が不採算路線となっており、運行を継続することが困難な状況となっている。</p> <p>また、石狩市全体の高齢化率は23.1%（平成22年時点）であるのに対し、浜益区の高齢化は49.4%（平成22年時点）と高齢化が著しく進行している様子が見受けられ、高齢社会における地域住民の生活交通の確保が重要である。</p> <p>このようなことから、事業採算性を意識しながら高齢者等の交通弱者の「生活の足」を確保するための、利便性が高く、将来に亘って持続可能な公共交通体系を構築する必要がある。</p> <p>そのため、石狩市浜益区における高齢社会や住民ニーズに即し、かつバス交通に関する財政負荷の軽減のため、浜益区内全域を網羅するとともに、幹線バス（中央バス・沿岸バス）との接続を目的とした、持続可能なバス交通体系を導入し、区民の生活利便性の向上を図ることを目的とする。</p>

石狩市地域公共交通会議における地域公共交通確保維持改善事業の概要

事業実施の目的・必要性

石狩市は札幌市の北側に位置し、南北に長く日本海に面している。面積は721.86km²、人口は約59,000人である。

石狩市浜益区内を運行する公共交通の利用者は、区内の人口減少などにより、減少の一途を辿っている。なかでも中央バス札幌浜益線は、浜益区の区間が不採算路線となっており、運行を継続することが困難な状況となっている。

また、石狩市全体の高齢化率は23.1%（平成22年時点）であるのに対し、浜益区の高齢化は49.4%（平成22年時点）と高齢化が著しく進行している様子が見受けられ、高齢社会における地域住民の生活交通の確保が重要である。

このようなことから、事業採算性を意識しながら高齢者等の交通弱者の「生活の足」を確保するための、利便性が高く、将来に亘って持続可能な公共交通体系を構築する必要がある。

そのため、石狩市浜益区における高齢社会や住民ニーズに即し、かつバス交通に関する財政負担の軽減のため、浜益区内全域を網羅するとともに、幹線バス（中央バス・沿岸バス）との接続を目的とした、持続可能なバス交通体系を導入し、区民の生活利便性の向上を図ることを目的とする。

生活交通確保維持改善計画の目標

浜益区予約運行型年間利用者数 1,584人

平成28年度事業概要

北方面

予約制デマンド方式
雄冬・千代志別・床丹・幌・群別各戸から幹線交通に接続または浜益温泉、診療所などまで運行

南方面

予約制デマンド方式
浜益・柏木・川下・昆砂別・送毛各戸から幹線交通に接続または浜益温泉、診療所などまで運行

東方面

予約制デマンド方式
浜益・柏木・川下・実田・御料地各戸から幹線交通に接続または浜益温泉、診療所などまで運行

厚田方面

予約制デマンド方式
浜益区内各戸から中央バス札幌厚線に接続

地域公共交通の現況

- ・北海道中央バス(株)(市内22路線)
- ・浜益滝川間乗合自動車(1路線)(自家用有償)
- ・スクールバス(17路線)(混乗含む)
- ・タクシー会社3社

協議会開催状況

<平成27年6月18日>平成27年度第1回石狩市地域公共交通会議

主な協議事項

- ・石狩市生活交通確保維持改善計画の提出について
- ・一般乗合旅客自動車運送事業の事業計画変更(中央バス札幌浜益線の廃止)について

<平成27年9月7日>平成27年度第2回石狩市地域公共交通会議(書面協議)

主な協議事項

- ・浜益区デマンド交通の料金設定の変更について

<平成28年6月22日>平成28年度第1回石狩市地域公共交通会議(書面協議)

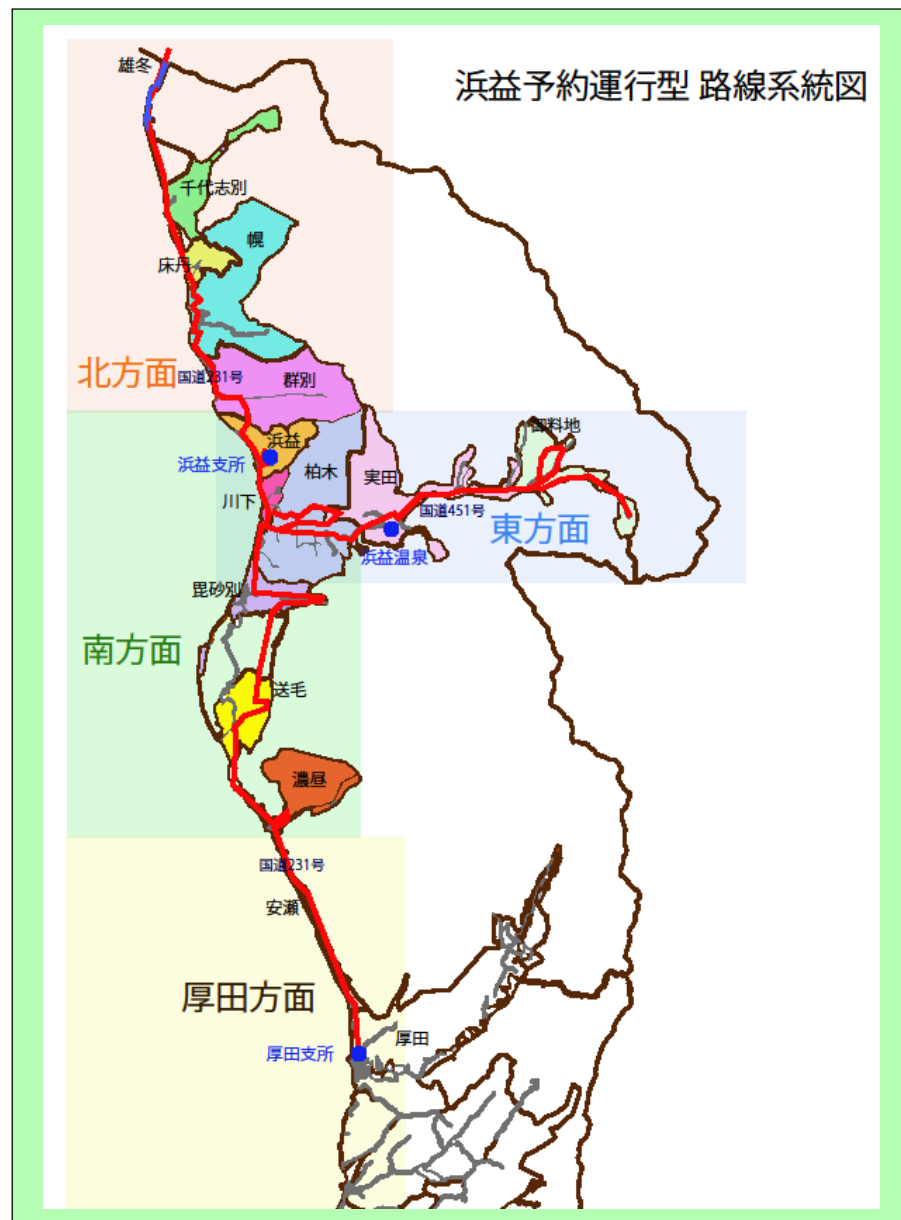
主な協議事項

地域生活交通確保維持改善計画の提出について

1) プロセス、創意工夫

- ・パンフレットの全戸配布(浜益区内)
- ・予約の手間を少しでも軽減するため、利用番号登録制度を設け、105件(157人)の登録があった。
- ・平成28年5月31日までに利用電話番号登録した方に浜益厚田間乗合自動車の片道2回分の運賃免除券を交付し、84回の利用があり、電話番号の登録及び利用促進につながった。(免除券利用有効期限は7月29日まで)
- ・市内の公共施設、北海道中央バス車内、バスターミナル、営業所等に浜益厚田間乗合自動車の運行チラシを掲示して周知を図った。
- ・浜益区民を対象に町内回覧で利用促進をPRLした。

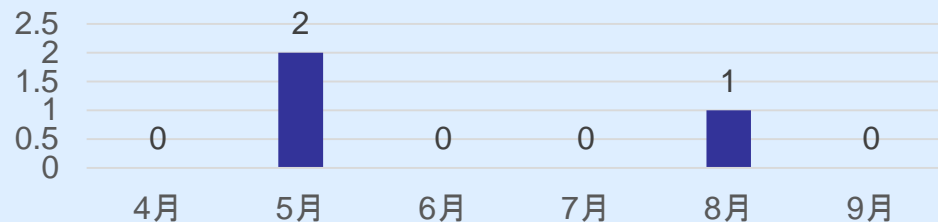
2) 運行系統



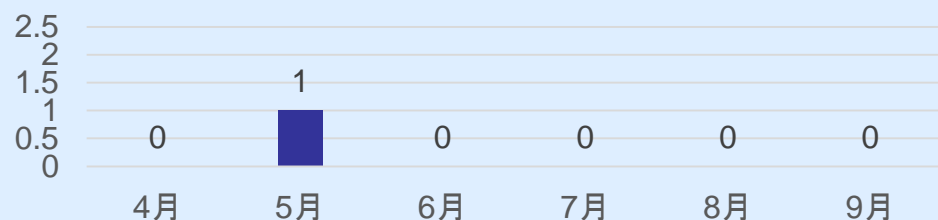
3) 利用実績 (平成28年4月～9月の利用人数)

単位:人

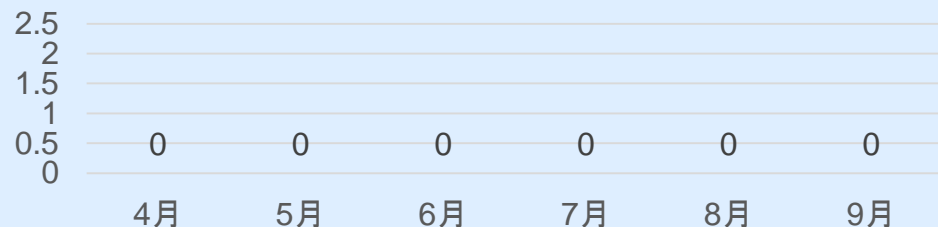
①北方面



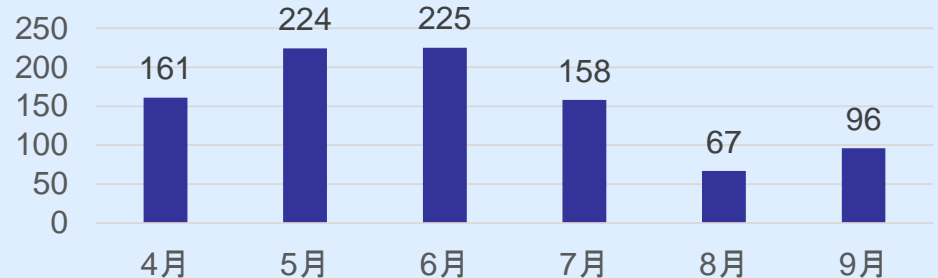
②南方面



③東方面



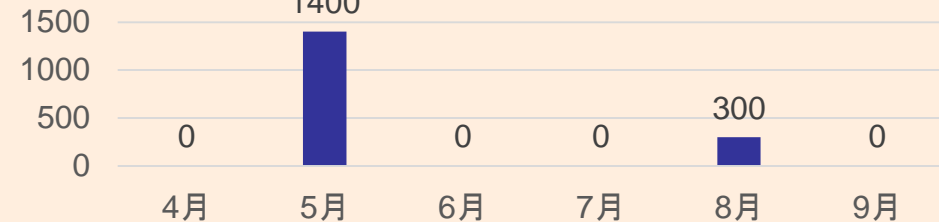
④厚田方面



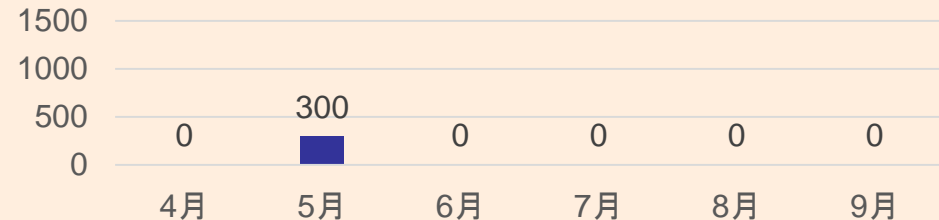
4) 収入実績 (平成28年4月～9月の運送収入)

単位:円

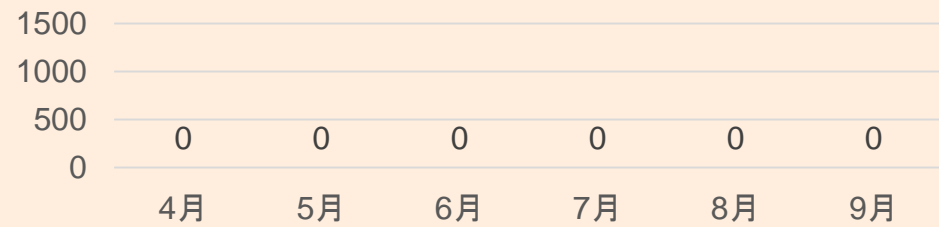
①北方面



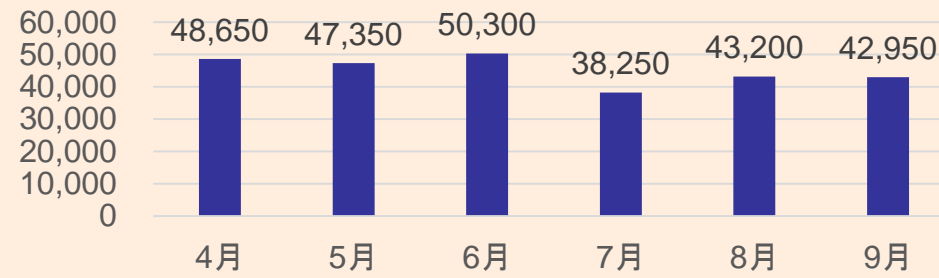
②南方面



③東方面



④厚田方面



5) 事業実施の適切性

事業が計画に位置づけられたとおりに実施されていない点があった。
特に南方面、東方面、北方面では補助対象外となってしまう運行が多かった。

6) 目標・効果達成状況

【事業の目標】

年間利用者数(4月～9月)

目標1,584人

実績935人

当初の想定よりも利用者が少なかった。また対象外の利用があったため、実績値としては、さらに低くなる要因となった。

7) 事業の今後の改善点

北海道中央バスの札幌浜益線(定期定路線)の廃止に伴い平成28年4月より新たな公共交通としてスタートした。
利用者の満足度やニーズの把握を行い、利用実態に合わせた運行エリアの見直し、時刻表の改定等について検討していく。

8) 地方運輸局及び地方航空局における二次評価結果(案)

運輸局記載欄